01 移住・定住促進

北海道士別市　杉浦　諒

移住・定住促進

～ 関係人口の創出や地域内外の交流を図る「コミュニティデザイナー」 ～

基本情報



【年　齢】
24歳
【出身地】
群馬県館林市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前　職】
大学生
【活動時期】
R7.4～R10.3.31（予定）

協力隊に応募したきっかけ

令和6年に、士別市にふるさとワーキングホリデーで約２ヶ月滞在し、ゲストハウスでの業務やオーナー夫婦をはじめ多くの地域の方たちとの出会いにより、この町で働き、暮らしていきたいなと思うようになりました。また、ゲストハウスのオーナーをはじめ、地域の方が取り組む課題解決に向けた様々な活動に、自分も参加させてもらうことで、自分が関心のある分野と地域の課題解決は、概ね一致していると実感しました。そうしたなかで、地域おこし協力隊として活動することを提案いただき、是非、隊員として活動してみたいと思い、応募を決めました。

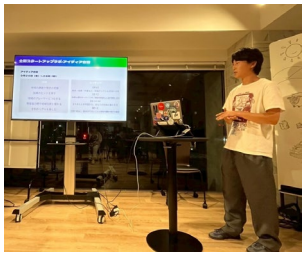
今後の抱負・任期後の目標

市内の方も市外の方も、気軽に集える居場所を創出したいと思います。また、みんなに面白そうだなと思ってもらえるような取り組みを進めて、多くの方に士別市に関わってもらえるよう精力的に活動していきたいです。

活動内容

●士別市移住定住交流促進協議会Mazaru事務局業務

・定例開催のポットラックパーティの企画、運営
・公式LINEやSNSなどの発信、管理・運営
・交流人口の創出や関係人口の創出に向けたイベントの企画、運営　　ほか



●士別市地域おこし協力隊ネットワーク事務局業務

・ネットワーク会議の進行、資料作成
・SNSなどの発信、管理・運営
・起業家（起業型隊員）育成の取り組みの企画・運営　　ほか



●ゲストハウスでの研修

・ゲストハウスにおける市内外の方を繋ぐ取り組みの企画・運営
・　〃　交流イベントの企画・運営
・ゲストハウス来客者との交流　　ほか



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））
mazaru.shibetsu.ijuteiju@gmail.com
（電話番号（職場））050-6882-2097
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】⇒⇒⇒⇒

OKOSHIBETSU_CHIIKIOKOSHI
↑協力隊Instagram

LINE
↑Mazaru公式LINE・Instagram↑

MAZARU.SHIBETSU.IJUTEIJU

北海道長沼町　江藤　誠洋

移住・定住促進

～　同世代の移住者を増やしたい！　～

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
神奈川県平塚市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前　職】
住宅メーカー　設計職
【活動時期】
R5.11～R8.11

協力隊に応募したきっかけ

東京で行われた長沼町単独の地域おこし協力隊募集相談会に参加したことがきっかけ。
知り合いも誰もいない地への移住だったため、協力隊活動を通して、自己実現のための仲間づくりや暮らしの基盤づくりをしていきたいと思ったから。また、私自身が移住に踏み切るまでに様々な悩みや不安があったため、自身の経験を踏まえて、これから地方でチャレンジしたい方の力になりたいと思ったから。

今後の抱負・任期後の目標

SNS等を活用して道外の同世代の方に長沼町の魅力を広域で伝えていきたい。また、移住検討者と町のつなぎ役として、地域の方と協力しながら町案内や空き家課題解決、イベント企画等に取り組んでいきたい。
任期終了後は「長沼町で暮らす」という選択肢を自然と感じてもらえるような場づくり、地域への関心やつながりを生むきっかけとして、町内で宿の開業を目指す。

活動内容

●移住定住促進活動

移住イベントの出展、移住相談、町案内、お試し暮らし住宅の受け入れ、「北海道移住のすゝめ」での活動、暮らしの情報発信など。
写真は移住検討者の方とワイナリーのテラスで移住相談した時の様子。



●協力隊居酒屋

町民と地域おこし協力隊、町民同士、最近移住してきた人、移住検討者などが、気軽にお話ししたり交流できる場づくりとして、協力隊の仲間と定期開催している「協力隊居酒屋」。地元食材を使ったグルメや協力隊それぞれの出身地のグルメを提供し、回を重ねるごとに老若男女が集う場になってきている。



●町内での宿開業準備

起業未経験だが、地域で活躍する先輩移住者に影響を受け、宿開業の準備中。創業塾で事業計画書の書き方を学んだり、地域の方にもアドバイスをいただきながら来年度の開業を目指す。
写真は同じ町内の宿泊事業者から譲ってもらったアンティークの扉。私の宿で受け継がせてもらう予定。



【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））m.eto.4110@gmail.com
（電話番号（職場））0123-76-8015

Instagram（個人）　MAOI_ETO

Instagram（宿）　OTSUGOMORI_

青森県十和田市　渡邊　ゆうみ

～　十和田市移住コンシェルジュ　～

移住・定住促進

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
埼玉県春日部市
【転出元】
埼玉県春日部市
【前　職】
美容業
【活動時期】
R5.8～R8.7

協力隊に応募したきっかけ

Iターンで移住をし、このまちで自分の仕事を作りたいと思っていました。
そのときに地域おこし協力隊の募集を知り、地域の方々と関わりながら魅力を発信できる活動に興味を持ちました。
少しでも地域の力になれたらと思い、応募を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

協力隊退任後も十和田市の地域おこし協力隊に関わり続けていけたらと考えています。
また、仲間と共に十和田市で起業（IT関連、飲食業など）しているので、会社も継続しつつ、地域に根差した活動を続けていきたいと思っています。

活動内容

●十和田市高校生魅力発信プロジェクト「TowaPro」



高校生が中心となり、十和田市の魅力を「ショート動画」で発信する移住・定住プロジェクトです。
取材から撮影、編集までを高校生自身が手がけ、市の公式SNSを通じて発信しています。
この活動を通して、十和田市の魅力を地域外に伝えるとともに、高校生自身が地元に愛着を持ち、十和田市と関わり続けてくれるきっかけになればと考えています。

●SNS企画運営



移住・定住向けの市公式InstagramとTikTokを開設し、運用しています。
地域で暮らす人やお店、イベントなどを紹介しながら、十和田市の「人のあたたかさ」や「くらしのリアル」を発信しています。
また、高校生が制作したTowaProの動画もあわせて紹介しています。

●圏域地域おこし協力隊　情報交換会・合同活動報告会



定住自立圏域の地域おこし協力隊による情報交換会を企画・運営しています。
活動内容や課題、不安、取り組み事例などを共有しながら、協力隊同士のつながりを深められるよう取り組んでいます。
また、合同活動報告会も開催し、お互いの経験を活かし合いながら、圏域全体の活動の広がりにつなげています。
この活動がきっかけで、圏域協力隊コラボ企画も生まれました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）yuutumugi.design@gmail.com（個人）
citypromotion@city.towada.lg.jp（市役所）
（電話番号）080-8810-2130（個人）　/　0170-51-6712（市役所）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram→日々コレ十和田ナリ（十和田市公式アカウント）
・TikTok→日々コレ十和田ナリ（十和田市公式アカウント）

@TOWADA.HIBICOLLECTION

秋田県秋田市　平石　かなた

移住・定住促進

～　「あきた市暮らし」移住定住コーディネーター　～

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前　職】
株式会社フェリシモ
【活動時期】
R5.5～R８.4
（３年目）

協力隊に応募したきっかけ

秋田市にある秋田公立美術大学へ進学し、卒業後はそのまま秋田市内のテレビ局に就職したことで７年間秋田市で暮らした経験がある。コロナ禍で都会での生活が苦しいと感じてもう一度秋田市に住んでみることに。ある程度の土地勘や事前の知識もあり、移住コーディネーターとしてのベースがあることと、会社員ではない働き方をしてステップアップのきっかけにもしたいと思い応募。

今後の抱負・任期後の目標

任期は残り6カ月。3年目は秋田市の協力隊が私1人なのでほぼすべての県外の移住イベントへの出張や移住ツアーを実施してきた。この2年半でフリーペーパーは11回の発行、広報誌のイラストの連載は7回、自主企画の交流会も開催したりとたくさんの経験をさせていただいている。秋田市内でのつながりを協力隊任期中に作る事ができ、今まで想像していなかった広がり方にわくわくしている。退任後はデザイナー兼自分の雑貨ブランドを立ち上げる予定。

活動内容

●移住者相談ツアー

移住を考えている方へオーダーメイドでツアーをプランニングしてご案内する。幼稚園や小学校、暮らしやすそうなエリア、素敵なお店などお客様が移住において気になっていることや希望をヒアリングし、アポを取って組み立てる。移住者としてどれだけ秋田市での暮らしをイメージできるかがポイント。



●SNS発信やデザイン業務

強みである発信力とデザインを生かしてインスタグラムを主なベースとして活動の発信をしている。市役所主催のイベントなどの告知もチラシや、リール動画などを作る。地元の人も県外の人も両方楽しめるかを大事にして制作活動をしている。



●ラジオコメンテーター

ABSラジオ番組「協力隊のシン・チカラジオ」のコメンテーターを務める。秋田県内の協力隊と県外からの移住者さんをゲストに、どんな活動をしているのかお話をする番組。昨年から2年間継続しており、今までに約60回の放送に出演し、多くの協力隊と繋がり、人に伝えることができている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））04kanata10@gmail.com
（電話番号（個人））080-4242-7018

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://lit.link/kanatananoka

KANATA_AKITA

群馬県みどり市　髙野　通宏

移住・定住促進

～　クラフトビールとサウナで関係人口を創出　～

基本情報



【年　齢】
56歳
【出身地】
郡馬県みどり市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前　職】
アパレル企業会社員
【活動時期】
R6.8～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

クラフトビールが好きで、サラリーマンをしながら、3年ほど前より、茨城県結城市のブルワリーにボランティアで通っていたところ、稲敷市の地域おこし協力隊がビールを作りに来て、地域おこし協力隊の制度を知りました。役職定年で親の介護で帰省を考えていた時、みどり市での募集を知り応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後は引き続き、クラフトビールの開発・販売を行って、いつか自分の醸造所を持ちたいと思います。また、わたらせ渓谷を「ととのう渓谷」にする活動も継続。わたらせ渓谷鐵道沿線に点在する薪サウナ施設や自然施設をつなぎ、引退車両を利用した「列車サウナ」をサウナタウンのシンボルとして「サウナ×鉄道×観光」の新しい地域ブランディングを進めてゆきたいと思います。

活動内容

●移住・定住支援

わたらせ渓谷鐵道大間々駅前の観光・移住ステーションにて、移住相談、移住希望者へお試し移住ツアーなどの案内をしております。また東京のふるさと回帰支援センターなどでの移住関連イベントに参加し、移住相談を行っております。市の移住関連インスタグラム「@みどり暮らし」も運営中です。



●みどり市産の副原料を使用したクラフトビールの開発

みどり市の農産物を利用したクラフトビールの企画・開発をしております。これまでに柚子や山椒、杉のチップを使ったビールを作り、週1日、自分で運営している「Mugi toGyoza]というビアバーで販売しております。ビアバーは地元の人と観光客・他市の方の交流の交差点になればと思っております。



●サウナ関連のイベント

サウナをフックに関係人口の創出を目指したイベントを開催しています。これまでにお寺やひまわりの花畑でのサウナ体験などを開催。「サウナで地域を元気にする」を合言葉にみどり市サウナクラブを結成し、将来的には、わたらせ渓谷をサウナタウンとして「ととのう渓谷」にしたいと考えております。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））michihiro42195@gmail.com
（電話番号（個人 ）090-3437-9455
【SNS】Instagram

@IJYU_JIN　@MUGI_TO_GYOZA　@MIDORI_SAUNA_CLUB

東京都檜原村　中澤　大樹

移住・定住促進

～　東京都にある”村”、檜原村で空き家対策　～

基本情報



【年　齢】
33歳
【出身地】
東京都八王子市
【転出元】
東京都八王子市
【前　職】
作業療法士
【活動時期】
R５.４～R８.３

協力隊に応募したきっかけ

もともと祖父の実家が檜原村にあったことで、幼少期から遊びに来ていました。作業療法士として働いている中で、自分の経験を生かすことと自分のやりたいことを考えたときに、檜原村への移住と起業を思い立ち、応募しました。事前に檜原村の総合計画などの書類を読み、事業計画を立ててから着任したため、その後の活動や行動は比較的スムーズに進むことができました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中に起業し、不動産業、空き家相談、生活支援業、体操教室、身体調整（疼痛緩和の施術）、学習塾、移住体験住宅の指定管理などを行っているので、まずはそれぞれを軌道に乗せていきたいです。高校の同級生2人と檜原村の方1名で仕事をしているので、「檜原村のために何ができるか」をみんなで念頭に置きながら、村民の皆さんに頼られる存在になっていけたらと考えています。

活動内容

●地域を知るための活動と人脈づくり

地域を周り、住民や村内事業者との交流をする中で、地域の歴史背景やこれまでの地域の取り組みを学び、現状、課題を把握する活動。
また、交流の中で人間関係を構築し、活動のバックアップをしてくれる応援者をつくる活動。



●高齢者の支援

各地域で行われている高齢者の集会に赴き、前職の作業療法士の経験を活かし、健康体操などを行う。高齢者の支援を行うことで、空き家や相続などの相談を気軽にできる存在として認知してもらう活動。



●空き家対策

宅地建物取引士の資格と免許を取得し、空き家相談士の資格も取得。役場の空き家相談窓口の職員と連携して、空き家や相続の相談業務を行う。今後は、委託業務として行い、宅地建物取引士を生かして、ワンストップで行える空き家相談窓口を行っていきたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）muradukuri@vill.hinohara.tokyo.jp
（電話番号）042-519-9556
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（檜原村地域おこし協力隊Facebook）
https://www.facebook.com/hinohara.chioko.tokyo/

新潟県加茂市　阿部　駿

移住・定住促進

～　加茂市の魅力を移住コンシェルジュがご案内　～

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
新潟県加茂市
【転出元】
東京都東久留米市
【前　職】
旅行代理店
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

前職の旅行会社で全国の自治体の担当者と話すと、「わが町にはこれがある！」と自信をもってお話されている姿がかっこよく映った。自分自身の故郷を考えた時に、何が良さなのか自信をもってPRできない自分が恥ずかしくなり、もう一度故郷について良く知る機会をつくろうと思って協力隊に応募した。

今後の抱負・任期後の目標

加茂市は新潟県の中でも観光地が少なく、知名度も高くない。一人でも多くの方に加茂市を知っていただき、加茂市を訪れてもらいたい。そのために魅力発信は今後積極的にやっていく。

任期後は、前職の経験を活かした職として加茂市の観光に携わりたく、加茂市観光協会の事務局で働く予定。

活動内容

●移住フェアへの加茂市ブース出展

東京で開催される移住フェアに加茂市ブースを出展。来場者に対して加茂市の紹介と魅力発信、移住についての相談に応じた。
移住体験ツアーを積極的に案内し、実際に加茂市に来てもらえるように工夫をしている。



●移住定住ポータルサイトの管理・運営

移住定住ポータルサイトの管理・運営を担当し、サイト内容の見やすさや利便性を向上させました。また、先輩移住者へのインタビュー記事を新たに掲載するなど、移住者の声を充実させ、より実感の伝わる情報発信を行いました。



●移住体験ツアーの実施

加茂市への移住を検討している方に対し、オーダーメイド型の移住体験ツアーを実施した。
その方の興味・関心に応じて見学する場所を変えながら、加茂市での暮らしが良く分かるように工夫している。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）kanko.kamo.abe@gmail.com
（電話番号）0256-53-0234
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（X（旧twitter））https://twitter.com/hayabe0714

長野県安曇野市　山崎　大輝

～　明科地域活性化　～

移住・定住促進

基本情報



【年　齢】
30歳
【出身地】
愛知県岩倉市
【転出元】
愛知県岩倉市
【前　職】
アウトドアガイド
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

地元愛知にいたときに地域おこしに興味を持ち、旅行などを通して移住を考えたときにこの「地域おこし協力隊」を知りました。
自分の活動でどれだけ地域が盛り上げられるか試してみたいと思い、協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

まずは明科地域の方との関りを広く持って、地域のことをよく理解していきたいです。
その後は西表島でネイチャーガイドや地元でのイベント運営活動の経験を生かして、アクティビティを中心とした観光資源を広く発信していきたいです。

活動内容

●地域活動の実情把握

安曇野市明科地域で地域活動をしている団体等の活動に参加し、地域の方との関係を築く。
・あかしな農業塾
・森倶楽部21
・清水里山整備協議会　等



●地域活動を通じた交流の場の仕組みづくり

観光やアウトドアのガイドツアー等で安曇野を訪れた方と地域の方が地域活動を通じて交流できる仕組みをつくり、実践する。



●明科地域の魅力発信

・インスタグラム投稿
・明科MAPの製作
・ずくだせ！協力隊（あづみのFM出演）　等



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（電話番号（職場）　）0263-71-2401
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（安曇野市地域おこし協力隊公式インスタグラム）
@azumino_akashina
https://www.instagram.com/azumino_akashina

@AZUMINO_AKASHINA

長野県安曇野市　瀬戸　康弘

～　明科地域活性化　～

移住・定住促進

基本情報



【年　齢】
37歳
【出身地】
群馬県前橋市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前　職】
自動車会社 開発職
(セールスエンジニア)
【活動時期】
R6.1～R8.12

協力隊に応募したきっかけ

2023年5月に安曇野を訪れた際に、水や緑、自然の豊かさにとても驚かされました。
こんな自然豊かな場所で子育てをしたいと、夫婦で話をしていました。
また、前職では海外駐在や出張が多く、母国の日本をもっと元気にしたい、という気持ちがありました。

今後の抱負・任期後の目標

一番大事なのは地域の方との信頼関係だと思っています。
何事も一人で出来ることは限られているので、地域の皆さんと一緒に明科を元気にしていく、そんな活動をしていきたいと思います。

活動内容

●地域活動の実情把握

安曇野市明科地域で地域活動をしている団体等の活動に参加し、地域の方との関係を築く。
・えべや
・清水里山整備協議会　等



●地域活動を通じた交流の場の仕組みづくり

観光やアウトドアのガイドツアー等で安曇野を訪れた方と地域の方が地域活動を通じて交流できる仕組みをつくり、実践する。



●明科地域の魅力発信

・インスタグラム投稿
・明科MAPの製作
・ずくだせ！協力隊（あづみのFM出演）　等



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（電話番号（職場）） 0263-71-2401

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（安曇野市地域おこし協力隊公式インスタグラム）
@azumino_akashina
https://www.instagram.com/azumino_akashina

@AZUMINO_AKASHINA

長野県宮田村　尾野　喬祐

移住・定住促進

～　10万人フォロワーが語る　リアルな長野移住　～

基本情報



【年　齢】
32歳
【出身地】
兵庫県西宮市
【転出元】
東京都板橋区
【前　職】
航空エンジニア
【活動時期】
R7.7～R10.6

協力隊に応募したきっかけ

宮田村の大自然に囲まれ山や川、空気がきれいな所と温かい人柄に惹かれました。生活圏が半径２キロとコンパクトながらコンビニやドラッグストアなどが豊富で、意外と便利。「村っぽくない村」としての魅力は唯一無二であり、私の発信力がお役に立てるのではないかと感じました。

今後の抱負･任期後の目標

SNSなどを駆使して観光や移住に関する情報発信に力を入れたいです。同世代の子育て世代にはSNSでリアルな声を届けることで、移住定住に対する悩みや不安の解消につながればと思っています。

活動内容

●移住定住の促進

移住フェアで「先輩移住者」として参加し、移住希望者への相談対応や情報発信を中心に、移住相談会の企画運営・個別相談・ポータルサイトやSNSでの発信を行っています。



●宮田村の情報発信

InstagramやYoutubeを活用した情報発信を継続中。
発信内容は移住定住や観光に関するものがメイン。
良い面だけではなく、「虫」や「寒さ」といったマイナス面も正直に発信することで信頼が高まります。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））kono23nag@gmail.com（個人）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（instagram）https://www.instagram.com/_saecam_/

長野県安曇野市　松尾　大

移住・定住促進

～　人と地域をつなぐ　空き家活用の架け橋へのチャレンジ　～

基本情報



【年　齢】
43歳
【出身地】
千葉県市川市
【転出元】
東京都杉並区
【前　職】
ジュエリースクール講師
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

20代から地方移住には憧れがあり、移住をする時には、地域おこし協力隊は良い制度だと感じていました。長年移住地を探してきた中でも、田んぼと北アルプスがある安曇野の景色は自分にとって一番心が落ち着く場所でした。この景色の中で家族と暮らしていきたい！そう考えた時に、ようやく募集を見つけたので迷わず応募しました。同時に移住の意思も固まりました。

今後の抱負・任期後の目標

所有者さん達から相談を聞いたり携わってきた中で、空き家は様々な要因が絡み合った結果が形として表れているという事がわかってきました。まちの魅力が伝えられなくなってきた事も空き家になる要因の一つです。

空き家を使ったまちづくりに取り組む事は、関連した様々な問題解決の糸口になると感じています。文化や芸術が発信できるまちになるようにものづくりを中心にした事業を計画中です。

活動内容

過疎化した明科地域の空き家掘起し

・令和４年に過疎認定の指定を受けた明科地区の空き家物件の整理と訴求促進をするため、市で把握している情報の整理・調査・掘起し。
・空き家を利用したい人へのマッチング。



明科まちあるきイベントの運営・ガイド

・民間団体の明科駅周辺まちづくり委員会と協力し、駅周辺の空き家から所有者・利用希望者とのマッチングにまつわる事前調査や、イベント企画・運営・ガイドを行います。



空き家活用・促進

・県外イベントや市内での区長会、出前講座などの空き家情報の訴求活動。
　HP、SNSの活用するため、物件の動画撮影・編集も行います。
・窓口業務や空き家移住相談も行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））azumino.akiya@gmail.com
（電話番号（職場））0263-71-2011
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

インスタグラム @azumino_akashina
https://www.instagram.com/azumino_akashina

@AZUMINO_AKASHINA

三重県尾鷲市　永田　健将

移住・定住促進

～　海・山・人が近いまちで、新しい暮らしを。定住移住サポーター　～

基本情報



【年　齢】
26歳
【出身地】
愛知県春日井市
【転出元】
愛知県春日井市
【前　職】
食品メーカー営業
【活動時期】
R7.4～

協力隊に応募したきっかけ

釣りが大好きで、中でも筏（いかだ）釣りと呼ばれる釣りをやる為に、愛知県から片道約2時間半かけて毎週末尾鷲に遊びに来ていました。海の上に浮かべられた筏から見る尾鷲の景観が本当に綺麗で且つ、大好きな釣りをもっと身近にできるような生活を送りたいと思ったことがきっかけでした。そんな中、三重県主催の移住フェアに訪れた際にたまたま尾鷲出身だった職員さんと出会い、仲良くなり、個人的に尾鷲を案内して下さったおかげで尾鷲への移住を本格的に考え始めました。

今後の抱負・任期後の目標

大好きな“釣り”に引き続き関わっていきたいと考えています。具体的な方法についてはまだまだ模索中ですが、
この貴重な3年間でいろいろな経験をしながら、釣りが身近にある生活を楽しみつつ、まだ釣りの楽しさを経験したことがない方には一度体験してもらうなど、尾鷲の海の素晴らしさをお伝えしていければいいなと考えています。

活動内容

●空き家バンクの運営

空き家を手放したい・貸し出したい所有者様と、買いたい・借りたい利用者様をマッチングするサービスとして運営しています。基本的には登記簿の確認、現地での写真撮影や図面の作成、HP掲載など一連の業務を行っており、利用希望者様が現れた場合には物件への案内や街の紹介などもしています。案内時には、所有者様が大切にしている思いや当時の暮らしををなるべくお伝えするように心がけております。



●都市部での尾鷲市PRイベントへの出展

尾鷲や尾鷲市地域おこし協力隊のPRとして、都市部で開催される移住フェアや移住相談会に出展しています。実際に自分が移住した経緯や体験談をお話することで、“移住に興味はあるがなかなか一歩が踏み出せない”方々の背中を押してあげられるような存在になるよう努めております。



●尾鷲の釣り好き交流インベントを開催

尾鷲には数多くの魚が住み、透き通って底まで見えるほど綺麗で素晴らしい海があります。そんな海がある尾鷲は県内外から、多くの釣り人が訪れる場所でもあります。尾鷲に来る釣り人を集めて交流して、より尾鷲の良さを知っていただきながら、移住者・2拠点居住者を創出していきたいと考えております。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））nagata.owase@gmail.com
（電話番号（職場））0597-37-4010

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
ブログ→https://nagaken23.com

YouTube　Instagram

三重県度会町　木崎　高志

移住・定住促進

～　わたらいふ（移住促進や空き家利活用）の提案　～

基本情報



【年　齢】
４４歳
【出身地】
高知県香南市
【転出元】
大阪府豊中市
【前　職】
機器メンテナンス
【活動時期】
R５.４～R８.３

協力隊に応募したきっかけ

大阪府で会社員として約２０年間勤め、環境を変えたいと思っていた折、幼少期のころ三重県伊勢市に住んでいたこともあり、お隣の度会町での移住体験会が目にとまりました。参加したところ、自然豊かな環境や地域の方が温かい度会町に惹かれ、そして協力隊ミッションに惹かれ応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

町内の方向けに空き家対策として、空き家管理や活用方法、空き家バンクを知っていただく活動をしています。
度会町に一軒家の賃貸住宅がほぼ無く、移住を勧めてはいるが、移住が住宅購入となると移住ハードルが高く、移住に踏み切れない方が多いと感じるので、一軒家の賃貸住宅を作って移住者の仲間を増やしていきたい。

活動内容

●空き家調査・空き家バンク運営作業

町内を回り、空き家の可能性のある家に空き家バンクチラシ投函実施。
空き家バンク登録に関わる内覧調査や内覧希望者の案内を行っています。



●空き家利活用リノベーションスキル向上

近隣町の同じようなミッション協力隊の改修現場で教えてもらいつつ、自身でも購入した空き家を素人ながらリノベDIYしています。
畑作業なども初めてながら行っています。



●移住イベントや広報活動

テレビやセミナーに登壇し、移住者として感じた事などを発信しています。



連絡先

三重県度会町みらい安心課　まで
電話：0596-62-2423
Mail:mirai@town.watarai.lg.lp

京都府与謝野町　郭　珍秀（かく　じんすー）

移住・定住促進

～　１００周年を契機に与謝野駅周辺活性化　～

基本情報



【年　齢】
３８歳
【出身地】
韓国　清州市
【転出元】
大阪府吹田市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R6.9～

協力隊に応募したきっかけ

義理の両親たちが丹後地域出身で何回も与謝野町に訪れていました。僕は都会よりも田舎の自然が好きで、自然で出来るアクティビティ（サイクリング・スイミング・スノーボード）が大好きです。与謝野町に訪問した時に、豊かな自然に囲まれて海や山、美しい平野がある与謝野町に魅力を感じました。特に与謝野町の方々の優しさに惹かれて与謝野町へ移住したいと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

３か国語（日本語・韓国語・英語）ができますので、それを活用して皆さんが泊まれる宿屋を運営したいです。
与謝野町や丹後地域は、豊かな自然に囲まれており、自然を活かした体験もできる場所なので、泊まる方達が丹後地域をしっかりと楽しめる場所を提供したいです。

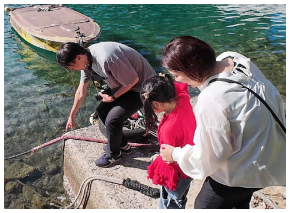
活動内容

●SNSを活用した情報発信

韓国出身の移住者から見た与謝野町や丹後地域の魅力をInstagramやYoutubeで発信しています。
地域行事や観光地などを撮影し自身が感じた事をコメントしながら魅力を伝えられるように動画を作成しています。一週間に一回の動画投稿をしています。
今後は外国人旅行者達に対して与謝野町を案内し、観光・体験の様子を撮影し発信していく予定です。

●移住･定住促進活動

移住希望者を連れて与謝野町と丹後地域の魅力を紹介する地域案内をしています。また、案内と合わせて移住希望者が地域の方と交流できる機会をつくり、移住後の生活をイメージしやすくしています。



●地域行事への参加･与謝野駅周辺活性化活動

地域の運動会や祭りなど色々な行事に参加し、地域の方と交流しながら日本文化を体験しています。
また、与謝野駅周辺の活性化を目的に活動する地域団体と協力してイベントを実施し、駅の活性化に取り組んでいます。地域の方を対象とした韓国語講座も駅で開催し、多くの人で賑わう場所にするための活動を進めています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））kakujinsoo@gmail.com

大阪府能勢町　小川　繁樹

移住・定住促進

～空き家から始まる、つながる暮らしづくり～

基本情報



【年　齢】
40歳
【出身地】
大阪府交野市
【転出元】
大阪府豊中市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R5.6～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

前職時代に地域との関わりがある事業をしていた際に興味を持ったことがきっかけでした。
自分にとっても、相手にとっても会社というフィルターをなくした上で少子高齢化の課題の世界でも最先端である日本の地方の実情を知りたいと考えた為に応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

これまでの活動を通じて、地域の現状や課題を多面的に理解し、住民や行政との協働の重要性を実感しました。
任期後は、これまで培った知識と経験を生かし、地域の資源を活かした新しい仕組みづくりや、人が関わり続ける場づくりに取り組みたいと考えています。
協力隊活動で得た経験を基盤に、地域の魅力を発信し、持続可能な形で次世代へつなげていくことを目標とします。

活動内容

●空き家事業（移住促進）

- 移住希望者相談業務
- 定期的な移住定住イベントへの参画
- 空き家の調査や相談体制の整備、他地域事例の 研究を通じて、移住希望者と地域をつなぐ基盤づくりに取り組みました。



●観光事業

- けやき資料館にてイベントやワークショップのサポート・屋台業務や物販のサポートを行い、来訪者との交流を通じて地域の魅力発信と観光誘客に取り組みました。



●地域連携支援

- けやき資料館を中心に環境整備実施。ガーデンや紫陽花ロードなどのメンテナンスに参画しました。ボランティアスタッフの拡充やボランティア内容の企画に従事。無理なく継続できる仕組みへと取り組んできました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（個人）shigekio.local@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（instagram）https://www.instagram.com/nose.chiikiokoshi/
（facebook）https://www.facebook.com/nose.chiikiokoshi/

和歌山県東牟婁郡串本町　石山 靖子

移住・定住促進

～イベントの運営立案を行い、移住者増加に取り組むためのコア人材～

基本情報



【年　齢】
38歳
【出身地】
千葉県佐倉市
【転出元】
千葉県千葉市
【前　職】
会社員、フリーランス
【活動時期】
R6.7～R9.6

協力隊に応募したきっかけ

前職での経験から、地方創生（農業・空き家等の課題）への取り組みに興味を持ちました。串本町に曾祖母の空き家を相続し、夏休み等の長期休暇を利用し、手入れに通っている中で、海や川の豊かさを感じた小学生の息子が串本に住みたい！と言ってくれたことがきっかけで移住を考えはじめました。会社員、フリーランスを経験し、行政と連携するというあたらしいキャリアに、先祖代々お世話になった土地でチャレンジしたいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

自分の経験を生かして、空き家の利活用と移住支援について、人口減少の現状がよくなるようコツコツ取り組みます。住まい・仕事・人間関係など、すべてがつながっていると思うので、自分が関わることで少しでも、今住んでいる人ひとりひとりが幸せだったり、地域への関わりにやりがいを持てるような元気なまちづくりに貢献したいです。自分も相手も地域も嬉しいwin-win-winを意識して、公私ともに楽しんで過ごしていきます。

活動内容

●空き家バンク運営・移住相談

住宅協力員や県の地域おこし協力隊等と連携し、空き家バンクの運営と、主に県外からの移住希望者に向けた移住案内を実施しています。自身が空き家を所有・管理していた経験や、関東から移住してきた経験を生かして、所有者・移住者双方の気持ちに寄り添いつつ、背中を押すようにしています。



●観光SNS発信・観光動態調査

串本町産業課の公式Instagramでのイベント情報等の取材・発信を行ったり、町内への宿泊・日帰り客の観光動態調査を観光協会さん等と連携して実施して、町内の観光の振興に貢献できるよう活動しています。



●まちづくり交流会や地域食堂の実施

協力隊活動を知ってもらいつつ、地域の方の声を拾うべく、地域の方との交流会を実施しました。そこで集めたニーズを元に、防災や子育て、食育等複数目的を持たせた『地域食堂』を提案し、公民館を活用し、地域の関係者の協力を得て、みんなでごはんを食べて交流するイベントを開催しました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））yasuko.ishiyama@town.kushimoto.lg.jp
（電話番号（職場））0735-62-0558

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/kushimoto_life/

岡山県玉野市　金子　美穂

移住・定住促進

～玉野の知名度を全国に！ふるさと回帰支援センター卒業生の挑戦！～

基本情報



【年　齢】
43歳
【出身地】
特定の出身なし(転勤族)
【転出元】
埼玉県和光市
【前　職】
ふるさと回帰支援センター(岡山県専属相談員)
【活動時期】
R6年.1月～

協力隊に応募したきっかけ

前職在籍中、玉野市へ出張へ出向いた際、移住支援団体に市内案内をしてもらい「受入側の移住支援」に関心を持ちました。玉野市のオープンな雰囲気と瀬戸内海の景観に心惹かれ移住候補地としました。
前職の繋がりや経験を活かし、既に関係を構築していた市職員や支援団体と共に、自身の強みややりたいことが実現できると確信し応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

宇野港や王子が岳などの個々のスポットに知名度はあるが、玉野市全体としての知名度や発信不足が課題と考えています。
首都圏での対面型移住セミナーを企画したり、地域住民や移住者と協力し形に残るZINE作りを実施します。任期後は玉野市に定住し、顔の見える仲間から業務委託を受ける「複業家」を目指しています。

活動内容

●移住先地域が漠然とした方へ、他市とのコラボセミナー

他市とのコラボセミナーにて玉野市先輩移住者として移住体験をスピーチしています。今年度は先輩移住者に声をかけ、移住体験談のスピーチを依頼しました。県内の同業者に協力を仰ぎ移住イベントの共同主催を企画しました。今年度は真庭市・備前市・総社市と実施します。



●前職ふるさと回帰支援センターでの定期出張相談会

前職ふるさと回帰支援センター岡山県ブースを利用し、出張相談会を企画、実施しています。前職で担当していた方からの再相談、前職のコネクションを活用しました。
移住先が漠然としていた方に個別相談を実施して、オーダーメイドの市内案内、移住に繋げました。



●地域住民、移住者と共にZINE作り

移住支援団体が発足した宇野港ラジオ体操という活動があります。運営の補佐をつとめながら、ラジオ体操のメンバーとZINE作りを企画しました。実行委員として情報発信、広報を担当しながら自らも玉野の暮らしの四季を執筆。移住相談会ではサンプル品を持参し、「玉野の人物図鑑」として活用しています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram(左)
note(右)

TAMANO.CHIIKIOKOSHI.IJU

岡山県西粟倉村　田村　伶

～　移住コーディネーター　～

移住・定住促進

基本情報



【年　齢】
３９歳
【出身地】
京都府宇治市
【転出元】
大阪府大阪市
【前　職】
人材派遣会社の支店長
【活動時期】
R７.５～R９.４

協力隊に応募したきっかけ

地域おこし協力隊の存在を知ったのは、3年ほど前でした。知り合いの経営者が大阪から北海道に移住し、うに丼屋兼宿泊施設を立上げ、経営されていると聞き、実際に何度か伺いました。
そこで、地域おこし協力隊の制度の素晴らしさと、地方創世の意義と時代的優位性、必要性を知り、いつか自身も日本のどこかで地域おこし協力隊になりたいと思い始め、情報収集を始め、西粟倉村と出会い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負は、移住者を受け入れ続け、関係人口を増やし続ける仕組みを、人口減少のトレンドを踏まえながら、省力化しつつ継続可能な形で構築すること。

任期後の目標は、地方創生のカテゴリーの中で特に需要のある人材になり、得たスキルと経験を求められる場所で還元しながらお金を稼ぐこと。

活動内容

●村内事業者17社による合同採用イベント

西粟倉事業協同組合と協力し企画、運営しました。村内の協力隊受入事業者17社とともに大阪で合同採用イベントを開催し、協力隊の採用、インターン、村への視察へ繋げました。よく知る大阪に新しい村の仲間たちと行くことはとても新鮮でした。



●1年目協力隊研修の企画・実施

「森林事業者視察研修」を西粟倉百年の森林協同組合と協力し、地域おこし協力隊1年目の隊員を対象に、実施しました。「百年の森林構想」の背景、現状と事業者活動を学び、西粟倉村の魅力や歴史を知ることを主要目的として行い、協力隊の地域理解を深めることができました。



●移住体験ツアーの実施

産業観光課と協力し、潜在的移住希望者向けに1泊2日で移住体験ツアーのお試し版を実施しました。テントサウナを初めて体験したのですが、この時の川の水の冷たさは一生忘れないと思います。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））r-tamura@vill.nishiawakura.lg.jp
（電話番号（職場））0868-79-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタグラム）

@TAMTAM_NISHIAWAKURA

広島県廿日市市　田崎　裕司

移住・定住促進

～　暮らし相談のスタート地点をつくる　～

基本情報



【年　齢】
36歳
【出身地】
広島県広島市生まれ
大阪府高石市育ち
【転出元】
東京都新宿区
【前　職】
アパレルEC経営
【活動時期】
R5.9～R7.8

協力隊に応募したきっかけ

ビジネススクール時代の友人が地域おこし協力隊になったことをきっかけに地域おこし協力隊に興味を抱き、廿日市市の地域おこし活動の存在を知りました。
私の実家がある広島市に隣接し、世界遺産の宮島があり、自然も街も両方楽しめる廿日市市の暮らしに魅力を感じました。また、個人事業主として活動しているので、兼業できることも応募の決め手になりました。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】
空き家バンクの運営に携わっており不動産を扱うため、様々な専門知識が関わってきます。暮らしに関わることの知識を深め、地域への移住・定住をトータルでサポートできる人材になりたいです。
【任期後の目標】
不動産売買や相続・登記関係など専門性の高い分野においても相談に乗ることができる存在になりたいです。

活動内容

●空き家バンクの運営サポート

「空き家バンク制度」は、主に一般の不動産業者の介入がない中山間地域などの空き家を、市を通じて紹介し、市に移住したい人に空き家の情報を提供するシステムです。
宅地建物取引業者と連携しながら、売りたい人と買いたい人をマッチングできるように活動しています。



●地域セミナー・勉強会への参加

空き家を把握するためには、地域の方の協力が必要不可欠です。地域の方にも空き家に関する理解を深めてもらい、地域全体で取り組めるように空き家に関する勉強会を開催しています。令和５年度に宅地建物取引士資格を取得したので、資格の知識を活かして相談者の役に立つ情報提供に努めます。



●移住定住イベントへの参加

広島県主催「オールひろしま移住フェア(有楽町)」に参加し、県外の方に広島と廿日市市の魅力を伝えました。私自身も大阪や東京といった都市部で暮らしていた経験があるため、自身の経験談を交えながら地域移住に関するアドバイスができればと心がけています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））h.chiikishienin@gmail.com
（電話番号（職場））0829-72-1112
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（はつかいち空き家バンクHP）https://hatsukaichi-akiyabank.com/
（廿日市地域支援員ブログ）https://201community-supporters.com/

山口県阿武町　松島　眞由美

移住・定住促進

～　農を援(たす)ける援農コーディネーター　～

基本情報



【年　齢】
54歳
【出身地】
東京都日野市
【転出元】
東京都日野市
【前　職】
フリーランス（援農）
【活動時期】
R７.４～R10.３

協力隊に応募したきっかけ

以前に紀州梅の農家とワーカーを繋ぐ「梅のコーディネーター」をしており、任務である「1/4worksコーディネーター」は活動内容が似ていたため応募した。

阿武町への移住を考え、空き家バンクで内見した物件からの、窓枠からの絶景«農村の銀世界»がまるで絵画のようだった。この風景に一目ぼれし、住むことに決めた。

今後の抱負･任期後の目標

プロジェクトでの援農などで阿武町に来られた人たちがまた阿武町にまた戻ってきたくなるような環境作りをしていきたいです。後に移住に繋がっていければと考えています。

活動内容

●1/4works援農プロジェクトコーディネート

「農林漁業体験」「就業体験」ができ、町の基幹産業「一次産業」の現場で繁忙期の人手を確保するため『1/4works（ヨンブンノイチワークス）援農プロジェクト』で、ワーカーの受入れや滞在中のサポートを行っている。



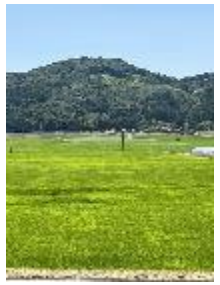
●関係人口づくり

プロジェクトのワーカー等が滞在する福賀シェアハウスの管理や利活用を行い、農家やワーカー、地域の人たちが交流できる場所づくりを実践している。









連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））machisui04@town.abu.lg.jp
（電話番号（阿武町役場まちづくり推進課））08388-2-3111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（阿武町地域おこし協力隊Facebook）https://www.facebook.com/abuokoshi

香川県坂出市　竹内　賢寛

移住・定住促進

～ワンストップ移住対応を推進！必要なものをゼロから構築～

基本情報



【年　齢】
35歳
【出身地】
長野県中野市
【転出元】
東京都目黒区
【前　職】
デジタルマーケティング
【活動時期】
R6.12～R9.12

協力隊に応募したきっかけ

結婚を機に、仕事中心の生活から「夫婦の時間」を重視したいと考え、東京からの移住を検討するようになりました。私が海のない雪国の出身のため、温暖で海の美しい地域を希望し、お互いの実家から遠すぎない四国の香川県・愛媛県に候補を絞りました。そうした中、東京で開催された移住フェアで坂出市の地域おこし協力隊について知り、これまでの経験を活かしながら移住先の課題解決に取り組める協力隊の仕事に魅力を感じ、応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

活動開始から約1年半が経過しました。坂出市の移住サイトや移住冊子を作成して基盤を整えながら、移住フェアでの相談対応や現地視察の案内を中心に活動してまいりました。今後もこうした業務を継続するとともに、協力隊のさらなる拡充に向けた「組織化」にも取り組んでいきたいと考えています。また、任期後の目標である「夫婦での起業・自走」を実現するため、3年という限られた期間を最大限に活かし、日々全力で取り組んでまいります。

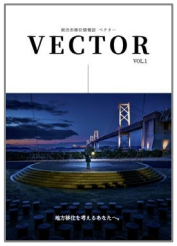
活動内容

●坂出市移住ポータルサイトの作成



リソースなどの問題もあり、坂出市には他の自治体にある移住特化型のポータルサイトがありませんでした。そこで、まずは基盤となる情報窓口を整備するため、自らサイト構築を行い、必要な情報を集約して3ヶ月でオープンさせました。今後はさらにコンテンツの拡充を進めてまいります。

●坂出市移住情報誌「vector（ベクター）」作成





同様に、他の自治体によくある移住情報誌などもありませんでした。そこで、写真撮影と印刷をかがわごとのOB隊員に依頼しつつ、デザイン・執筆・編集は自ら行い、坂出市の移住情報誌を刊行いたしました。今後はさらなる内容と品質のアップデートを進めつつ、シリーズ化できたらと考えています。

●移住相談の対応



上記のハード面を整備しつつ、メインとなる移住フェアや現地視察の対応を日々行っています。特に「現地視察対応(個別相談対応)」では、一人ひとりの状況に応じ、内容をカスタマイズし、現地での暮らしが実感できる案内に注力しています。また、必要に応じ生活コスト算出や物件選定まで柔軟に対応しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））cok.t.takeuchi@gmail.com
（電話番号（坂出市 政策課））0877 - 44 - 5001

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（坂出市移住ポータルサイト）https://iju-sakaide.jp

高知県四万十町　岩﨑　姫無

移住・定住促進

～移住者目線で地域と人をつなぐ“橋渡し役”～

基本情報



【年　齢】
22歳
【出身地】
東京都板橋区
【転出元】
東京都板橋区
【前　職】
フリーター
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

高校時代から「自分が本当にやりたいこと」を模索し、会員制のサロンを通じて外部の大人たちと出会い、思考が広がる中、環境を一転させることで自分の“好きなこと”と“仕事”を重ねられる暮らし方に興味を持ちました。移住先を探す中で、四万十町で高級オーガニック卵「神果卵」事業を継承した方との出会いをきっかけに「地域おこし協力隊」という制度を知り、移住を決意。

今後の抱負・任期後の目標

最後の一年は移住促進を目的としたイベントの開催や移住相談対応、四万十町の魅力発信業務を引き続き、実施したいと考えています。
任期後の目標としては、現在行っている餃子「Tangled」の営業日を増やしながら、餃子のオンライン販売をしていくことで、四万十町の魅力を町内にとどまらず全国に発信していきたいです。

活動内容

●移住相談対応

四万十町に移住を検討している方の不安の解消や四万十町の魅力を伝えて、同じ移住者目線で移住相談を受けます。制度説明だけでなく、実際の暮らし方や地域との関わり方などリアルなところもお伝えすることで、移住後の定着にもつながるサポートを意識しています。



●移住者交流会の企画・主催

移住後の孤立を防ぎ、町内で自然なつながりを形成できるよう、横の繋がりづくりを目的とした交流会を定期的に開催。農業体験や季節イベント、など幅広いテーマで企画し、移住者同士だけでなく、地域住民も交えた横のネットワークづくりを促進しています。



●四万十町の魅力発信

四万十町公式noteやFacebook、Instagram、YouTubeなどのSNSを活用して、四万十町での暮らしや人、地域で育つ食材や文化などを取材・編集し、移住希望者にも伝わる形で発信を行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（職場）iju-40010@town.shimanto.lg.jp
電話番号（職場）0880-22-3281
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
四万十町協力隊Facebook（ https://x.gd/slisD）
餃子屋「Tangled」Instagram→

福岡県香春町　原田　野々花

移住・定住促進

～　空き家を活かし繋げる移住・定住の輪　～

基本情報



【年　齢】
24歳
【出身地】
福岡県北九州市
【転出元】
大阪府守口市
【前　職】
店舗デザイン会社
設計職
【活動時期】
R7.4～R10.3

協力隊に応募したきっかけ

大学時代に地域づくりに関心を持ち、卒業制作では「商店街の再生」をテーマに研究を行いました。研究を進める中で、次第に商店街を構成する“店舗そのもの”に興味を抱くようになり、卒業後は大阪の店舗デザイン会社に就職しました。店舗デザインの仕事を通じて、培った知識やスキルを活かしながら、地元・福岡で地域に根ざした活動がしたいという思いが強くなり、そんな折に地域おこし協力隊の募集を知り、応募を決意しました。

協力隊の制度については詳しく知りませんでしたが、香春町はサポート体制がしっかりしているのだなと感じたことが、応募を後押しする大きなきっかけとなりました。

今後の抱負・任期後の目標

今年は「地域に慣れること」を目標に、移住・空き家相談室の業務を中心に活動しました。地域をまわったり、イベントに参加・企画したりする中で、多くの方と関わる機会がありました。そのおかげで、香春町が自分にとって“帰る場所”のように感じられるようになり、人とのつながりや居心地の良さを実感しています。

来年からは、これまでの経験やスキルを活かして、空き家の活用やデザインの面から町の動きに関わっていけたらと思っています。

任期後は、これまでの経験をもとに、自分の仕事や暮らしの軸を香春町に置きながら、継続的に地域の活動にも関わっていきたいと考えています。

活動内容

●地域まわり、空き家バンク

移住・空き家相談室を運営している(一社)カワラカケルと共に、香春町空き家・空き地情報バンクの運営や相談室への空き家相談者からの相談に応じたり、自らの足で町内の空き家調査を行ったりしています。実際に現場をまわりながら学ぶことで、空き家に関わる実務の流れを理解できました。



●イベント企画

活動の一環としてイベントの企画を担当し、7月には陶芸のイベントを開催しました。自分の好きな陶芸をテーマにできたこと、参加者の方々と直接お話しできたことが印象的でした。

町外からの参加も多く、香春町を知ってもらうきっかけになったのが嬉しかったです。準備から運営までを通して、イベントづくりの難しさと楽しさを実感しました。



●陶芸

香春町に来る前から趣味として学んでいた陶芸を、より本格的に学んでいます。

町の陶芸教室に通ったり、地域の陶芸家の方に教えていただいたりしながら、制作の幅を広げています。素材や釉薬についての理解も深まり、少しずつ自分らしい表現を模索しています。

今後は、陶芸を自分の軸のひとつとして確立できるよう努力していきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（個人メールアドレス）nonokaharada24@gmail.com
（移住・空き家相談室）0947-32-8408
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（移住・空き家相談室）https://kakeru.town.kawara.fukuoka.jp/
https://www.facebook.com/iheartkawara/

長崎県諫早市　黄　治豪(コウ チゴウ)

移住・定住促進

～　森山から你好！森山の魅力を世界へ発信～

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
中華人民共和国 北京市
【転出元】
千葉県 野田市
【前　職】
ホテル勤務
【活動時期】
R7.3～R10.2

協力隊に応募したきっかけ

もともと田舎で暮らしながら民泊などの起業をしたいという思いがあり、偶然、協力隊をしている友人から、諫早市の協力隊を紹介してもらったことがきっかけです。
採用前に諫早市内を訪れた際、美しい自然や温かく迎えてくださる地域の皆さんに触れ、「ここなら自分らしい暮らしができる」と強く感じ、これまでの自分の経験を活かせる場としてもぴったりだと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

協力隊活動では、森山地域の歴史や文化、ルール、人のつながりを理解し、尊重することが何より大切だと考えています。それを踏まえ、新しい取組を行うときには、まず今ある地域資源や、施設の有効活用が大切だと感じています。今あるものを活かしながら、自分の経験だけでなく、様々な視点を取り入れることで、訪れる人々が何度も足を運びたくなるような魅力的な森山町になるよう、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。

活動内容

●森山地域の魅力発信

インスタグラムを活用して森山地域の情報発信を行っています。
森山地域の魅力を再発見し、地域の方だけでなく、地域外の人にも森山の魅力を伝えています。まだまだ知られていない森山の魅力を地域の方々と一緒に探して世界へ発信していきます。



●移住相談者への支援

移住相談会等へ参加して、移住に対する理想と現実、そしてその先にある本当の楽しさや魅力、価値などについて、相談者に伝えることで、移住に対する不安の解消や暮らしのイメージをし易くするお手伝いをしています。



●森山地域の活性化

森山地域の祭りなど色々な行事に参加し、地域の方と交流しながら日本文化を体験しています。
また、中国語講座を開催し、中国語とともに文化や人のことを知ってもらい、日本と中国の相互理解の促進に繋げていきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））iju_teiju@city.isahaya.nagasaki.jp
（電話番号（職場））0957-22-1500

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタグラム）moriyama.saiko

鹿児島県屋久島町　坂井　直利

移住・定住促進

～　空き家の利用促進（移住推進及び情報発信）　～

基本情報



【年　齢】
３８歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
奈良県奈良市
【前　職】
工務店
【活動時期】
Ｒ７.４～

協力隊に応募したきっかけ

屋久島の自然やそこに生息する動植物に以前から強い関心を持っており、知人から地域おこし協力隊の制度と屋久島町の募集について教えてもらったことをきっかけに応募いたしました。

今後の抱負･任期後の目標

元々工務店で仕事をしておりましたので、空き家利用促進にその時の経験を活かしながら取り組んでいけたらと考えております。
また、任期後は屋久島町に残り続けたいと考えておりますが、経験が浅く先が見えていない状況ですので、活動をしながら住み続けていける生業を考え活動をしてきたいと思います。

活動内容

●空き家利用促進に関する業務

・屋久島町空き家バンクの運営業務
・各集落を回り、空き家バンク制度の説明
・各集落を回り、空き家の情報収集
・移住希望者に対する空き家情報の提供



●移住推進に関する業務

・移住希望者からの相談対応
・移住体験ツアー等の企画実施
・移住関係インターネットページの情報更新
・移住者へのインタビュー等による移住体験談の収集



●情報発信に関する業務

・ＳＮＳ等を活用した日常的な情報発信



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））ijyu@town.yakushima.kagoshima.jp
（電話番号（職場））0997-43-5900
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（facebook）https://www.facebook.com/145370406258663